



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2021年11月5日

JFEホールディングス株式会社

- **JFEグループ 2021年度 上期決算**
- **JFEグループ 2021年度 業績見通し**
- **配当について**
- **事業会社別**
2021年度上期決算・業績見通し
- **トピックス（ESG課題への取り組み等）**

JFEグループ 2021年度 上期決算



2021年度 上期決算概要

JFE

前年度下期以降の世界各国の経済持ち直しが継続していることを背景にした、堅調な鋼材需要と鋼材市況等により、鉄鋼事業を中心に収益は大幅に回復

(億円)	2020年度 上期	2021年度 上期	増減
売上収益	14,922	19,429	4,507
事業利益	▲1,143	1,988	3,131
金融損益	▲64	▲56	8
セグメント利益	▲1,207	1,932	3,139
個別開示項目	-	-	0
税引前利益	▲1,207	1,932	3,139
税金費用・非支配持分帰属当期利益	150	▲524	▲674
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲1,057	1,407	2,464

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

2021年度 上期決算概要 セグメント別

JFE

(億円)		2020年度 上期	2021年度 上期	増減
売上収益				
鉄鋼事業		10,272	14,104	3,832
エンジニアリング事業		2,219	2,292	73
商社事業		4,517	5,444	927
調整額		▲2,086	▲2,411	▲325
合計		14,922	19,429	4,507
事業利益	(A)	▲1,143	1,988	3,131
金融損益	(B)	▲64	▲56	8
セグメント利益				
鉄鋼事業		▲1,362	1,585	2,947
エンジニアリング事業		87	111	24
商社事業		72	256	184
調整額		▲4	▲20	▲16
合計	(A+B)	▲1,207	1,932	3,139

JFEグループ 2021年度 業績見通し



2021年度 業績見通し (対前回)

JFE

- 鉄鋼事業については、鋼材価格改善の取り組みの成果により、主原料価格上昇の中でもスプレッドの改善を見込む一方、金属・スクラップ等の諸物価上昇に伴うコストアップがあり、前回公表通りのセグメント利益（2,800億円）を想定
- グループ全体の事業利益は、商社事業の増益を踏まえ、**前回公表比+100億円好転**の見通し

(億円)	2021年度見通し (前回)		2021年度見通し (今回)		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	19,700	41,700	19,429	43,400	▲271	1,700
事業利益	1,950	3,500	1,988	3,600	38	100
金融損益	▲50	▲100	▲56	▲100	▲6	0
セグメント利益	1,900	3,400	1,932	3,500	32	100
個別開示項目	—	—	—	—	0	0
税引前利益	1,900	3,400	1,932	3,500	32	100
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲600	▲1,000	▲524	▲1,000	76	0
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,300	2,400	1,407	2,500	107	100

2021年度 業績見通し（対前回） セグメント別

JFE

(億円)	2021年度見通し(前回)		2021年度見通し(今回)		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益						
鉄鋼事業	14,500	31,300	14,104	31,900	▲396	600
エンジニアリング事業	2,400	5,200	2,292	5,200	▲108	0
商社事業	5,600	11,500	5,444	12,100	▲156	600
調整額	▲2,800	▲6,300	▲2,411	▲5,800	389	500
合計	19,700	41,700	19,429	43,400	▲271	1,700
事業利益 (A)	1,950	3,500	1,988	3,600	38	100
金融損益 (B)	▲50	▲100	▲56	▲100	▲6	0
セグメント利益						
鉄鋼事業	1,600	2,800	1,585	2,800	▲15	0
エンジニアリング事業	100	250	111	250	11	0
商社事業	230	380	256	450	26	70
調整額	▲30	▲30	▲20	0	10	30
合計 (A+B)	1,900	3,400	1,932	3,500	32	100



2021年度 業績見通し（対前年度）

JFE

- 上期は、鉄鋼事業の需要回復や市況上昇を主因に、**事業利益は1,988億円の黒字**
- 国内外の経済の持ち直しを背景として、鋼材需要回復や鋼材市況の上昇等により、**通期の事業利益は3,600億円（前年度比+3,729億円）**の見通し

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	14,922	32,272	19,429	43,400	4,507	11,128
事業利益	▲1,143	▲129	1,988	3,600	3,131	3,729
金融損益	▲64	▲124	▲56	▲100	8	24
セグメント利益	▲1,207	▲254	1,932	3,500	3,139	3,754
個別開示項目	—	204	—	—	0	▲204
税引前利益	▲1,207	▲49	1,932	3,500	3,139	3,549
税金費用・非支配持分帰属当期利益	150	▲169	▲524	▲1,000	▲674	▲831
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲1,057	▲218	1,407	2,500	2,464	2,718

2021年度 業績見通し (対前年度) セグメント別

JFE

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益						
鉄鋼事業	10,272	22,552	14,104	31,900	3,832	9,348
エンジニアリング事業	2,219	4,857	2,292	5,200	73	343
商社事業	4,517	9,325	5,444	12,100	927	2,775
調整額	▲2,086	▲4,461	▲2,411	▲5,800	▲325	▲1,339
合計	14,922	32,272	19,429	43,400	4,507	11,128
事業利益 (A)	▲1,143	▲129	1,988	3,600	3,131	3,729
金融損益 (B)	▲64	▲124	▲56	▲100	8	24
セグメント利益						
鉄鋼事業	▲1,362	▲654	1,585	2,800	2,947	3,454
エンジニアリング事業	87	240	111	250	24	10
商社事業	72	200	256	450	184	250
調整額	▲4	▲41	▲20	0	▲16	41
合計 (A+B)	▲1,207	▲254	1,932	3,500	3,139	3,754

連結キャッシュフロー、Debt/EBITDA倍率見通し

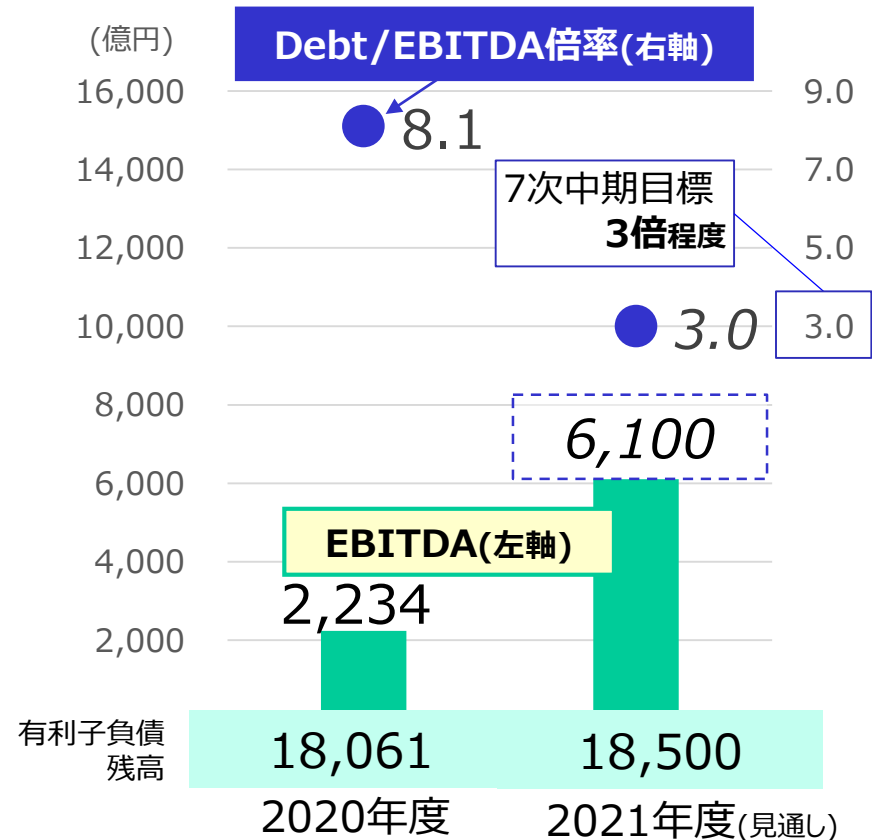
2021年度末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標レベルに到達（3.0倍）

連結キャッシュフロー見通し

(億円)

Cash-in	Cash-out
当期利益 2,500	設備投資 および投融資 3,800
減価償却費 および償却費 2,500	配当金支払 400
資産圧縮 500	運転収支他 1,700
有利子負債 400	

Debt/EBITDA倍率の推移



- Debt/EBITDA倍率 = 有利子負債残高/EBITDA
- EBITDA = 事業利益 + 減価償却費及び償却費

配当について



当期の中間配当については、
1株当たり60円とする方針を取締役会において
決議いたしました。

期末の配当については、
今後の業績動向を見極めつつ検討することとしており、
未定としております。

JFEスチール
2021年度 上期決算
2021年度 業績見通し

2021年度 上期決算

JFE

	単位	2020年度					2021年度			上期 見通し (前回公表)
		4-6月	7-9月	上期	下期	年間	4-6月	7-9月	上期	
		売上収益	億円	5,087	5,186	10,272	12,279	22,552	6,385	
セグメント利益	億円	▲578	▲784	▲1,362	708	▲654	697	888	1,585	1,600
棚卸資産 評価差除き*	億円	▲348	▲334	▲682	368	▲314	257	428	685	750
単独 粗鋼生産量	万t	479	538	1,017	1,259	2,276	625	645	1,270	1,300 _弱
連結 粗鋼生産量	万t	509	568	1,077	1,319	2,396	659	680	1,339	1,360 _弱
単独 鋼材出荷量	万t	459	475	934	1,115	2,049	526	556	1,083	1,140 _{程度}
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	44.2	40.2	42.2	42.4	42.3	43.2	49.3	46.5	47 _{程度}
鋼材平均価格	千円/ t	75.3	71.0	73.1	76.2	74.8	87.6	101.0	94.5	95 _{程度}
為替レート	円/ドル	107.7	105.9	106.8	104.8	105.8	109.8	110.0	109.9	110 _{程度}
期末為替レート	円/ドル	107.7	105.8	105.8	110.7	110.7	110.6	111.9	111.9	-

* セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益



販売価格改善を着実に実行し、セグメント利益はほぼ前回見通しどおり

JFEスチール	2021年度上期 見通し	2021年度上期 実績	(億円) 増減 見通し→実績
セグメント利益	1,600	1,585	▲15
1. コスト	±0		
2. 数量・構成	▲60	・粗鋼量 1,300万t弱⇒1,270万t ▲30万t弱	
3. 販価・原料	+30	(≒鋼材トン当たり：300円) ・主原料価格は高値圏継続も、国内外の需給・市況を背景に スプレッドは改善	
4. 棚卸資産評価差等	+50	・棚卸資産評価差+50 (+540→+590) ・原料キャリーオーバー影響±0 (+300→+300) ・為替換算差±0(+10→+10)	
5. その他	▲35	・金属・スクラップ等の諸物価上昇 他	

2020年度上期

⇒ 2021年度上期 セグメント利益 +2,947億円内訳

販売価格の改善や粗鋼生産量の増加に加え、国内外グループ会社収益の改善により、2,947億円の改善

(億円)

JFEスチール	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績	増減 2020上→2021上
セグメント利益	▲1,362	1,585	+2,947

1. コスト

+150

・ 設備投資効果発現 等

2. 数量・構成

+450

- ・ 鋼材需要回復による数量増
(粗鋼量1,017万t⇒1,270万t)

3. 販価・原料

+340

- (≒鋼材トン当たり：3,100円)
- ・ 主原料価格は上昇するも、
国内外の需給・市況を背景に、スプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

+1,580

- ・ 棚卸資産評価差+1,170 (▲580→+590)
- ・ 原料キャリーオーバー影響+360 (▲60→+300)
- ・ 為替換算差+50(▲40→+10)

5. その他

+427

- ・ 国内外グループ会社収益の改善 等

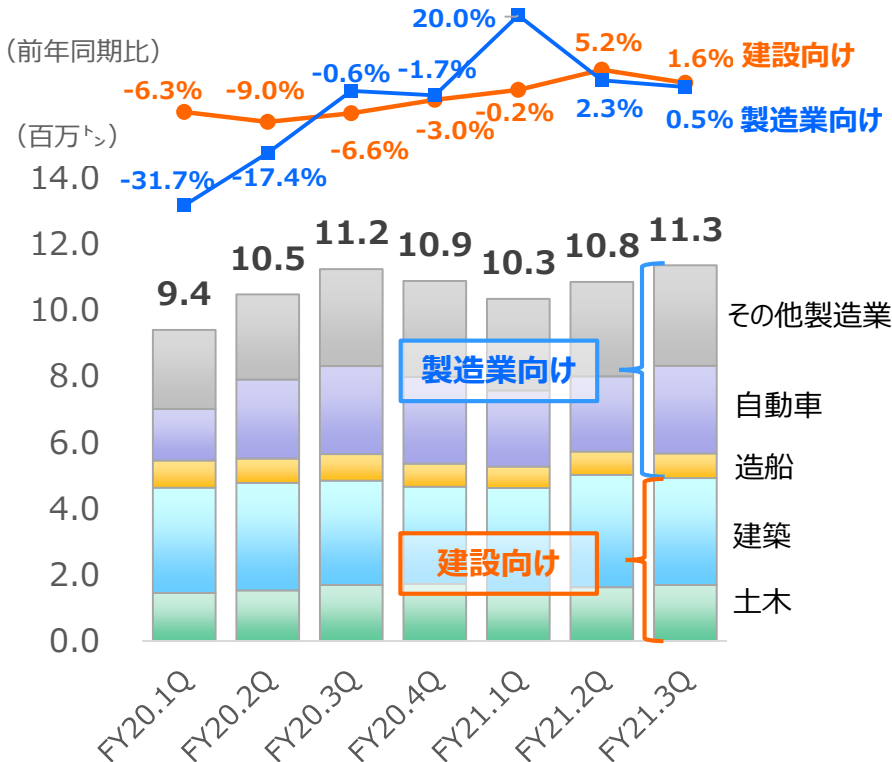


足元の事業環境認識（国内）

JFE

- **製造業を中心に需要堅調、鋼材需要の回復基調が継続**
- 3Qの国内普通鋼鋼材消費見通しは**前年同期比+1.0%、前期比+4.6%**と増加する見通し
- 部品供給制約や半導体不足影響を受け、自動車生産は減少。年間自動車生産台数は**820万台程度**（対前回見通し▲100万台）を見込む
- 部品・半導体不足は**長期化リスクもあり、動向を注視**

【国内普通鋼 鋼材消費見通し】



分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> 前回見通し年間生産台数を下方修正し、年間820万台程度を想定（上期→下期では増産の見通し）
造船	<ul style="list-style-type: none"> 新造船受注は世界経済の回復に伴う荷動・用船市況の上昇を背景に増加基調 手持ち工事量も安定水準まで概ね回復
他製造業	<ul style="list-style-type: none"> インフラ・住宅投資等の建機需要は堅調に推移 半導体、EV関連の設備投資活発化を受け産業機械も堅調
土木	<ul style="list-style-type: none"> 公共分野は底堅く推移し、鋼材需要は概ね前年度並みを想定 下期は季節要因もあり、鋼材需要は上期比で増加を見込む
建築	<ul style="list-style-type: none"> 再開発案件など、大型案件や物流倉庫は堅調に推移 中規模案件などの動きだしも見られる

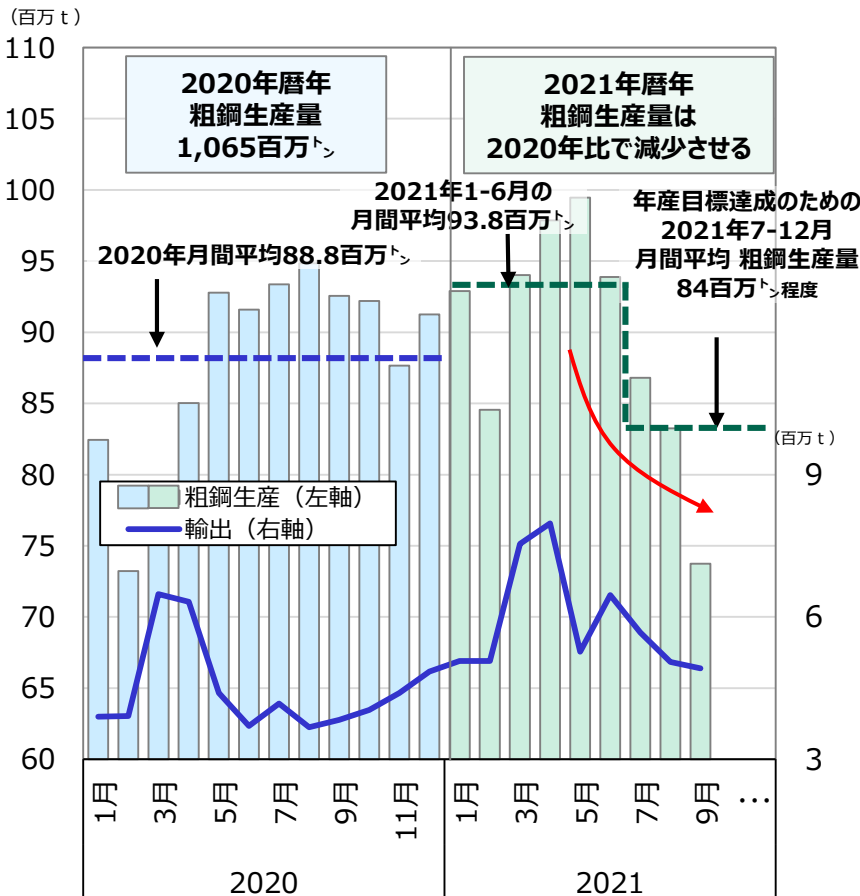
出所：10月8日 経済産業省 鋼材需要見通し（FY20.4Q以降は推定実績）

足元の事業環境認識（海外）



- 世界経済の回復に伴い、**鋼材需要は総じて回復基調が継続する見込み**
- 中国の粗鋼生産抑制や輸出抑制の政府方針が継続する限り、**需給タイトな環境が継続**する見通し
- 東南アジアや新興国の**新型コロナウイルス感染再拡大の影響**や**半導体、部品供給制約の動向**には要注視

【中国粗鋼生産量・鋼材輸出量】



【各国情勢・動向の見通し】

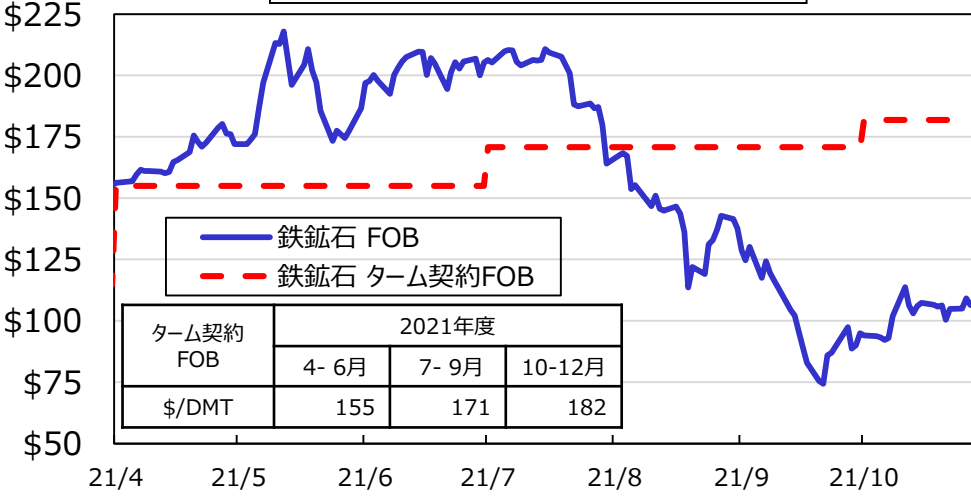
要素	見通し概況
中国の粗鋼減産施策	<ul style="list-style-type: none"> 中国の粗鋼減産と輸出抑制施策により、中国からの鋼材輸出は減少傾向にある 粗鋼減産に加え、主原料コスト上昇により、中国国内市況は底堅く推移しているが、今後の動向は要注視
インドミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> アジア圏への輸出は見られるが、コロナ禍のピークアウトや秋の需要期による内需回復を想定 原料炭価格の高騰を受け、輸出価格は一定レベルが維持されると想定
ロシアミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> 欧州販売停滞（季節要因）と欧州・トルコの自動車減産等を背景に各地で安値での輸出の動きあり 自動車生産の回復により輸出先は欧州・トルコへ回帰し、他国ミルのオファー価格の回復に伴い、一定レベルの価格に収斂すると想定
中国の電力不足	<ul style="list-style-type: none"> 中国の一部高炉・電炉で操業制限。製造業への影響は要注視 合金鉄の製錬所の操業調整による供給不足により、金属市況が高騰
東南アジアのCOVID-19再拡大	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品のサプライチェーン寸断による、自動車減産や、電機など各製造業の減産が発生 一時的な需給緩和により、東南アジア鋼材市況は足元軟化 今後、自動車生産の回復に伴い、市況回復を想定

業績見通しの前提（原料市況、鋼材市況）



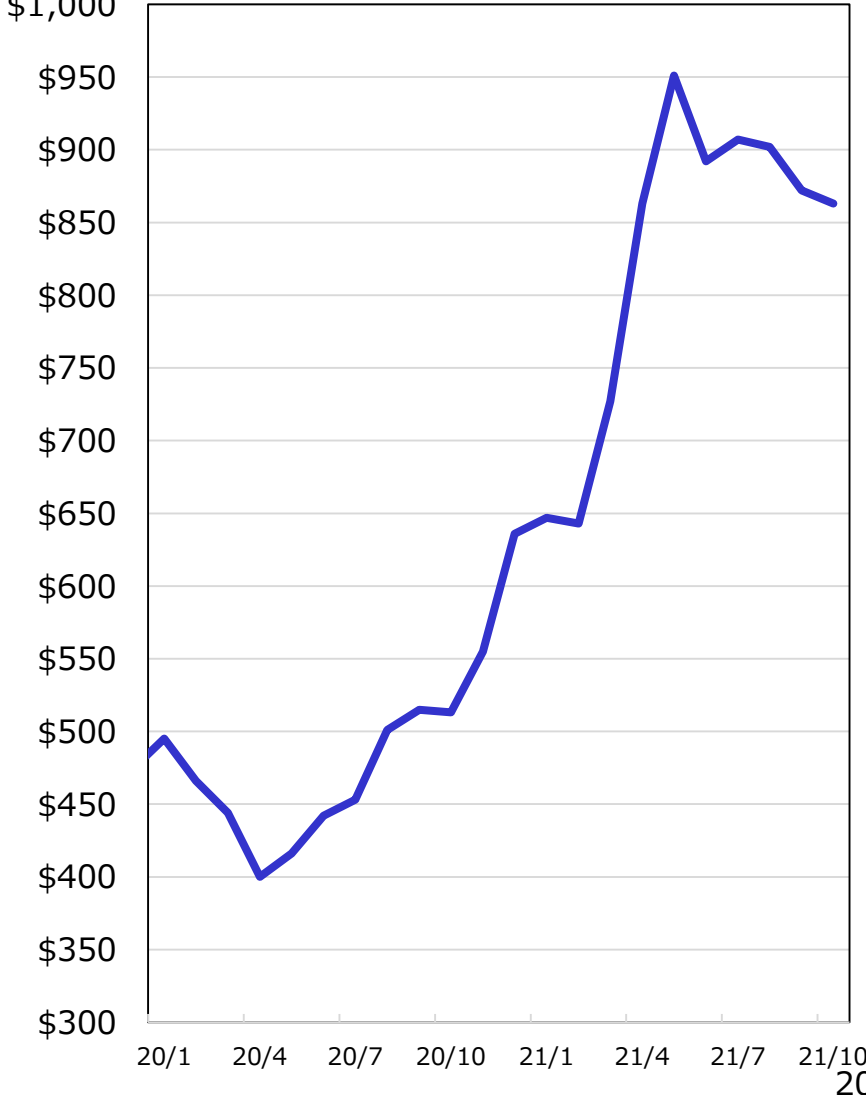
(\$/DMT)

鉄鉱石（豪州粉鉱）



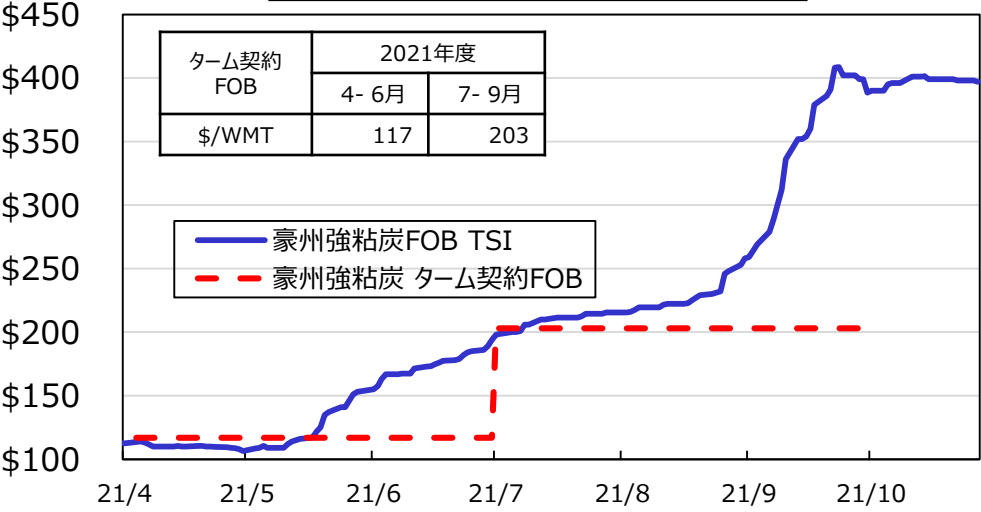
(CFR価格 \$/t)

東南アジア熱延価格



(\$/WMT)

原料炭（豪州強粘炭）





業績見通しの前提

JFE

粗鋼生産量見通し

- 21年度の単独粗鋼生産量は、**2,650万トン程度**を見込む
- 2021年12月中旬に倉敷第4高炉火入れ予定（12月下旬から12月中旬に前倒し）

メタルスプレッド

- 国内輸出トータルのスプレッドは**前回見通し比+430億円の改善**を見込む
高値圏の主原料とタイトな鋼材需給環境が継続し、鋼材市況は高位継続すると想定
 - **鉄鉱石価格**
中国の粗鋼減産政策を背景に、一定の落ち着きを見せており、当面は**足元の水準で推移**すると想定
 - **原料炭価格**
足元市況は過熱しすぎていると見ているが、収束に一定程度時間を要すると見ており、**当面は高値圏継続**と想定

金属・スクラップ価格

- 需給のタイト化に加え、各国の電力不足を背景に、ほぼすべての金属で**高値継続**



販売価格改善の具体的取り組みと進捗

JFE

- 主原料コスト上昇・需給タイトを背景として、輸出鋼材市況は高止まり
- 以下の取り組みを通じて、国内の販売価格改善も着実に進んでいる

具体的取り組み

◆ 原料コスト早期反映

原料コストの上昇分の確実かつ早期の価格反映に取り組む

- 原料コストに連動して販売価格を決める取引：原料コスト参照期間の短縮化
- 個別交渉により販売価格を決める取引：原料コスト確定後1カ月程度での反映
- 金属・スクラップなどのコスト上昇分に関しても鋼材価格への反映に向けて交渉を継続

◆ 海外市況の捕捉

市況との連動性が高い品種・分野に関しては、原料コスト上昇分を上回る価格改善について認めていただいている

◆ エキストラ見直し

一例では、特殊なサイズ・形状に対して追加でかかるコストをエキストラ化するなど、既に一部では改定を実現。実態にそぐわなくなっている部分もあるため、見直しを加速

◆ 持続可能な価格水準への是正

継続的な取引の中でも、安定的な収益水準を確保できていない一部については、持続可能な価格水準への是正を推進

JFEスチール 2021年度 業績見通し

JFE

	単位	2020年度 年間	2021年度			2021年度 年間 前回見通し
			上期 実績	下期 見通し	年間 見通し	
売上収益	億円	22,552	14,104	17,796	31,900	31,300
セグメント利益	億円	▲654	1,585	1,215	2,800	2,800
棚卸資産評価差等除き*	億円	▲314	685	505	1,190	1,230
単独粗鋼生産量	万t	2,276	1,270	1,380 程度	2,650 程度	2,650 程度
連結粗鋼生産量	万t	2,396	1,339			
単独鋼材出荷量	万t	2,049	1,083			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	46.5			
鋼材平均価格	千円/t	74.8	94.5			
為替レート	円/ドル	105.8	109.9	110 程度	110 程度	110 程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

2021年度 セグメント利益 対前回見通し ±0 億円内訳

販売価格改善を着実に実行し、セグメント利益は前回見通しどおり

JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	2,800	2,800	±0

(億円)

1. コスト

±0

2. 数量・構成

±0

- 粗鋼量 2,650万t程度

3. 販価・原料

+430

- (≒鋼材トンあたり：+1,900円)
- 販売価格改善を着実に推進

4. 棚卸資産評価差等

+40

- 棚卸資産評価差+240 (+1,140→+1,380)
- 原料キャリーオーバー影響▲200 (+420→+220)
- 為替換算差±0 (+10→+10)

5. その他

▲470

- 金属・スクラップ等の物価上昇 等

2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,454億円内訳

- 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- 輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅な改善を見込む

JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	▲654	2,800	+3,454

(億円)

1. コスト	+300	・ 新規設備投資効果等
2. 数量・構成	+700	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,650万t程度)
3. 販価・原料	+860	(≒鋼材トンあたり：+3,700円) ・ 主原料市況は大幅に上昇する見通しだが、需給・市況環境を背景に、販売価格上昇によりスプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	+1,950	・ 棚卸資産評価差+1,750 (▲370→+1,380) ・ 原料キャリーオーバー影響+190 (+30→+220) ・ 為替換算差+10(±0→+10)
5. その他	▲356	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

2021年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲370億円内訳

JFE

- 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善が進捗
- 主原料物価に加え、その他原料の物価も上昇
- 販売価格は改善するものの、下期損益は上期からの悪化を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 2021上→下
	上期 実績	下期 見通し	年間	
セグメント利益	1,585	1,215	2,800	▲370

1. コスト	+150	<ul style="list-style-type: none"> • 新規設備投資効果 • ソフト改善 等
2. 数量・構成	+260	<ul style="list-style-type: none"> • 国内外の経済復調を背景に、緩やかな需要回復を見込む • 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増 (粗鋼量 1,270万t⇒1,380万t)
3. 販価・原料	+360	<ul style="list-style-type: none"> (≒鋼材トンあたり：+2,900円) • 更なる販売価格改善を織り込み
4. 棚卸資産評価差等	▲190	<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産評価差+200 (+590→+790) • 原料キャリーオーバー影響▲380 (+300→▲80) • 為替換算差▲10(+10→±0)
5. その他	▲950	<ul style="list-style-type: none"> • 海外グループ会社上期好調 • 減価償却費・経費 • 金属・スクラップ等の物価上昇 等

JFEエンジニアリング 2021年度 業績見通し

2021年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

- ▶ 国内の事業環境は環境・エネルギー関連分野およびインフラ分野ともに堅調に推移
- ▶ 海外については、欧州の環境関連分野が引き続き堅調に推移
- ▶ 企業買収による増収等により、セグメント利益は前年度を上回る見通しで引き続き安定的な収益を確保

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,989	5,011	2,523	5,500	▲466	489	3,000	5,500
売上収益	2,219	4,857	2,292	5,200	73	343	2,400	5,200
セグメント利益	87	240	111	250	24	10	100	250

対前年度

＜年間＞	・受注高	+489	企業買収、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注増
	・売上収益	+343	前年度受注高拡大、企業買収による増加
	・セグメント利益	+10	売上収益増により増加

対前回見通し

＜上期＞	・受注高	▲477	契約時期ずれにより減少
	・売上収益	▲108	工事進捗ずれにより減少
	・セグメント利益	+11	コスト発生時期差により増加

JFE商事

2021年度 業績見通し

2021年度 業績見通し

JFE

足元の事業環境/損益概況

- 上期は、コロナ影響により大幅に落ち込んでいた**需要の回復**に加え、**鋼材市況の高騰**により**国内外グループ会社の収益が拡大**し、前年同期比で大幅な増益
- 下期は、上期に比べ減速はするものの、引き続き**北米を中心とした海外Gr会社**での**増益基調**が継続する見込みであることから、
通期では**セグメント利益450億円（対前回見通し+70億円、対前年度+250億円）**の見通し

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	4,517	9,325	5,444	12,100	927	2,775	5,600	11,500
セグメント利益	72	200	256	450	184	250	230	380

対前年度

- ・鋼材市況の高騰および、コロナ影響により落ち込んでいた**需要の回復**により増益の見通し。

対前回見通し

- ・上期は、北米を中心に鋼材市況が高位で継続し増益。
下期は、高収益の持続が見込めることから増益の見通し。

トピックス (ESG課題への取り組み等)

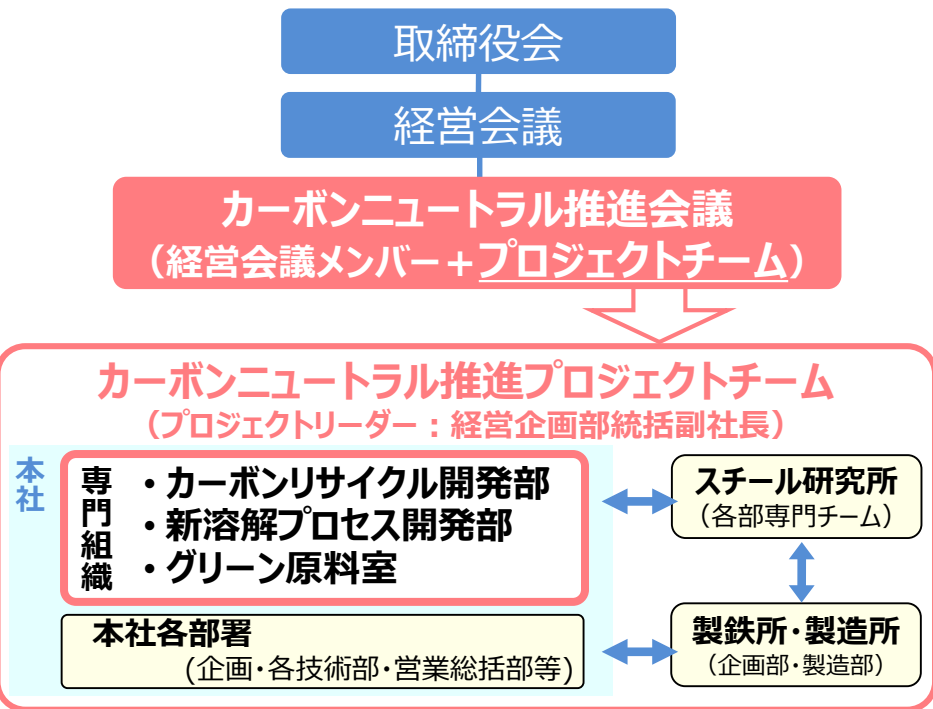
環境に関する取り組み①



JFEスチール： カーボンニュートラル推進体制を再編

2021年9月22日 リリース

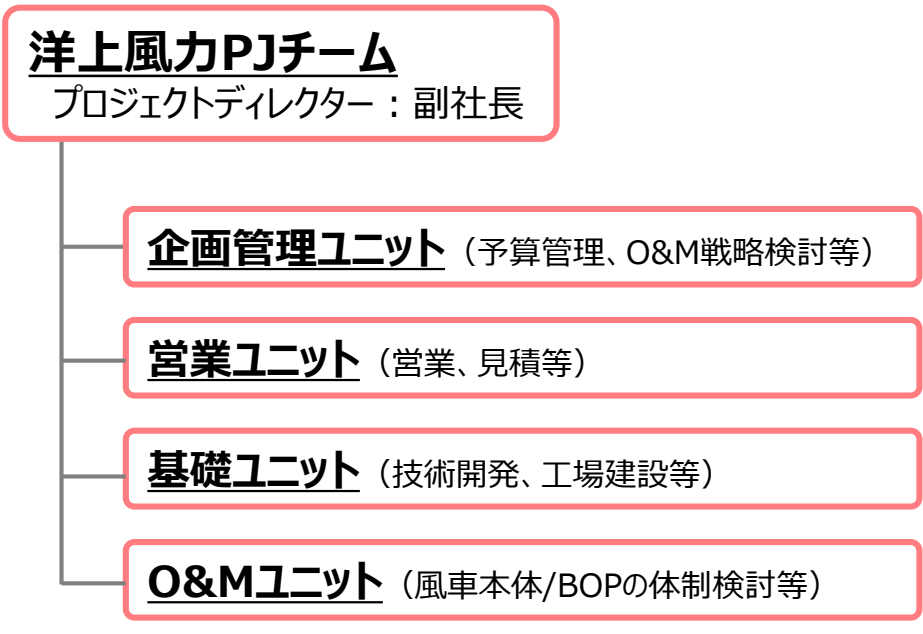
- 重要課題の一元審議・決定を目的に、経営会議メンバーとプロジェクトチームで構成される「カーボンニュートラル推進会議」を設置（21年10月）
- カーボンニュートラル推進専門組織を3部門新設（21年7月・10月）



JFEエンジニアリング： 洋上風力事業に関する新組織発足

2021年8月31日 リリース

- 洋上風力の基礎製造からO&Mに至るまで、一貫して取り組むことのできる組織を発足
- 今後もカーボンニュートラル実現に向けて、JFEグループのシナジーを活かし、洋上風力分野での事業拡大を目指す



環境に関する取り組み②

JFE

JFEスチール： 「BETTER RECYCLE 湘南」プロジェクト*

2021年9月16日 リリース



- プラスチック容器の使い捨て問題に取り組み、
缶用鋼板による飲料容器である「ベターリサイクルカップ」の試作品を製作
- テイクアウト時の使い捨てプラスチック飲料容器に代わる**環境にやさしいライフスタイル**を提案、
循環型社会の実現に貢献
- 湘南エリアでテストマーケティングを実施、
3～5年後の新商品開発を目指す

*湘南地域に精通したメディア「湘南スタイルmagazine」および
技術コンサルティング会社「株式会社IBLC」と当社の3社によるプロジェクト

JFEエンジニアリング： 木質バイオマス発電所の事業化決定

2021年10月27日 リリース

- 愛知県田原市において、
木質バイオマス専焼発電所を建設・運営
- 国内最大級**112,000kWの発電出力
- プロジェクトにJFE商事他、JFEグループ各社も参画、
グループ総合力を生かした事業運営
- CO₂排出削減貢献量：34万t-CO₂/年

名称	田原バイオマスパワー合同会社		
出資者	JFEエンジニアリング	40%	
	中部電力	40%	
	東邦ガス	10%	
	東京センチュリー	10%	
	燃料種別	木質ペレット	
発電出力	112,000kW（国内最大級）		
計画発電量	約7.7億kWh		
	（一般家庭約25万世帯分相当）		
工事開始	2022年6月（予定）		
運転開始	2025年9月（予定）		

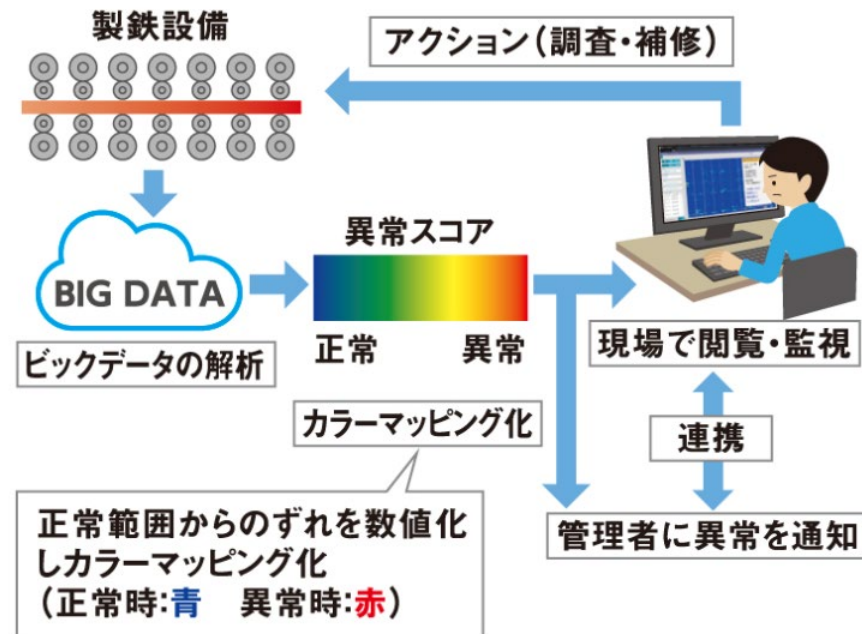
DXに関する取り組み

JFE

JFEスチール：設備異常予兆検知システム「J-dscom®」を全地区熱延工場に展開

2021年9月29日 リリース

- 操業状態を示す膨大なデータを解析、設備異常予兆を検知、トラブルを抑止
- 過去経験のない想定外のトラブルにも対応可
- 西日本製鉄所(倉敷・福山地区)および東日本製鉄所(千葉・京浜地区)の全地区熱延工場に共通システムを導入
- 今後他製造プロセスへの展開を推進



JFEグループDX戦略説明会を開催

2021年8月26日 開催



<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/management/plan/index.html>

当社HPの株主・投資家情報をご覧ください。

説明会資料・音声動画・質疑要旨を掲載しております。

JFEグループ
DX戦略説明会
2021年8月26日

Digital
Transformation **DX**



JFE ホールディングス 株式会社



傘下グループ会社の再編について

JFE

JFEスチール：JFEミネラル(株)、水島合金鉄(株)、JFEマテリアル(株)の3社統合

2021年11月1日 リリース

- 鉄鋼事業のうち鉱産品・合金鉄、製鉄関連事業、及び機能材料事業を担うグループ会社である、JFEミネラル(株)、水島合金鉄(株)、JFEマテリアル(株)の3社について、**2022年4月1日を目途に統合**を決定
- **国内鉄鋼事業の縮小、気候変動への対応**、自動車の電動化や社会のIoT化の進展による**機能材料分野の事業機会の拡大**など、事業環境の大きな変化に対応すべく、統合によって会社規模を拡大、強靱な経営基盤を確立して長期の持続的成長、JFEグループの競争力強化を目指す

JFEスチール：エヌケーケーシームレス鋼管(株)の解散

2021年11月4日 リリース

- Tenaris S.A.社(以下テナリス)の100%子会社であるSiderca社と当社の合併事業として、シームレス鋼管の製造と販売を行っていたエヌケーケーシームレス鋼管(株)(以下NKKT)について、**2022年6月末を目途に生産停止、同年12月末をもって解散**することを決定
- 油井管ビジネスにとって厳しい事業環境が継続している中、当該事業を取り巻く環境や見通しを3社で精査した結果、事業継続は困難と判断
- NKKTがテナリスへ行っていた13Crシームレス鋼管の供給については、操業停止以降JFEスチールが供給を継続、両者の関係を維持することで大筋合意



その他トピックス

JFE

2021年度統合報告書（10月19日）・CSR報告書（10月25日）を発行しました



1. 創立以来最大の変革に挑戦 ～第7次中期経営計画～

- ・ 第7次中期経営計画の策定
- ・ 「JFEグループ環境経営ビジョン2050」の策定
- ・ 事業会社における各社の事業戦略



<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html>

2. 環境・社会的持続性と経済的持続性の確立に向けて

- ・ 経済面の重要課題を加えた、新たな経営上の重要課題（マテリアリティ）策定
- ・ 人権デューデリジェンスの取り組み など



1. 第7次中期経営計画

2. 経営上の重要課題(マテリアリティ)

- ・ 従来のCSR重要課題に経済面の関連課題を加えて再編

3. ESG課題への取り組み・ESGデータ集

- ・ 環境：気候変動問題、環境配慮型プロセスと商品、資源循環 など
- ・ 社会：労働安全衛生、ダイバーシティ&インクルージョン、人権尊重 など
- ・ ガバナンス：コーポレートガバナンス、リスクマネジメント など



<https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/index.html>

新市場区分における「プライム市場」選択を決議しました

取締役会にて、東京証券取引所の新市場区分への移行について「プライム市場」を選択、東京証券取引所に対して申請することを決議しました。

2021年11月5日 リリース

參考資料



主な財務関連データ

JFE

【日本基準】

【IFRS】

見直し

年度	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)						
経常利益	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)						
親会社株主に帰属する当期純利益	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	40	60	30	30	80	95
配当性向	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

年度	'18	'19	'20	'21
【主要財務指標】(億円、%、倍)				
事業利益	2,320	378	▲129	3,600
EBITDA ※1	4,282	2,694	2,234	6,100
ROS ※2	6.0%	1.0%	▲0.4%	8.3%
ROE ※3	8.6%	▲11.1%	▲1.3%	14.0%
ROA ※4	5.0%	0.8%	▲0.3%	7.4%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,143	18,061	18,500
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍	8.1倍	3.0倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%	93.2%	84.3%
【1株当たり情報】(円/株、%)				
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4	▲38.0	434.2
配当金	95	20	10	未定
配当性向	33.5%	-	-	未定

【日本基準】

※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費

※2 ROS: 経常利益/売上高

※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本

※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産

※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費

※2 ROS: 事業利益/売上収益

※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分

※4 ROA: 事業利益/資産合計

※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA

※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分

但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

2020年度下期

⇒ 2021年度上期 セグメント利益 +877億円内訳

(億円)

JFEスチール	2020年度 下期実績	2021年度 上期実績	増減 2020下→2021上
セグメント利益	708	1,585	+877

1. コスト

±0

2. 数量・構成

±0

- 粗鋼量 1,259⇒1,270万t

3. 販価・原料

+150

(≒鋼材トン当たり：1,400円)

- 鉄鉱石・原料炭価格は上昇するも、国内外の需給・市況を背景に、スプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

+560

- 棚卸資産評価差+380 (+210→+590)
- 原料キャリーオーバー影響+210 (+90→+300)
- 為替換算差▲30(+40→+10)

5. その他

+167

- 海外グループ会社収益の改善
- 金属・スクラップ等の物価上昇 等

2021年度4-6月

⇒2021年度7-9月 セグメント利益 +191億円内訳

(億円)

JFEスチール	2021年度 実績			増減 4-6月→7-9月
	4-6月実績	7-9月実績	上期	
セグメント利益	697	888	1,585	+191

1. コスト

±0

2. 数量・構成

+20

- ・ 4-6月（メンテナンス工事集中）から増加（粗鋼量 625⇒645万t）

3. 販価・原料

+400

- （≒鋼材トン当たり：7,200円）
- ・ 主原料は高値圏継続も、国内外の需給・市況を背景にスプレッドは改善

4. 棚卸資産評価差等

+20

- ・ 棚卸資産評価差+30（+280→+310）
- ・ 原料キャリーオーバー影響±0（+150→+150）
- ・ 為替換算差▲10（+10→±0）

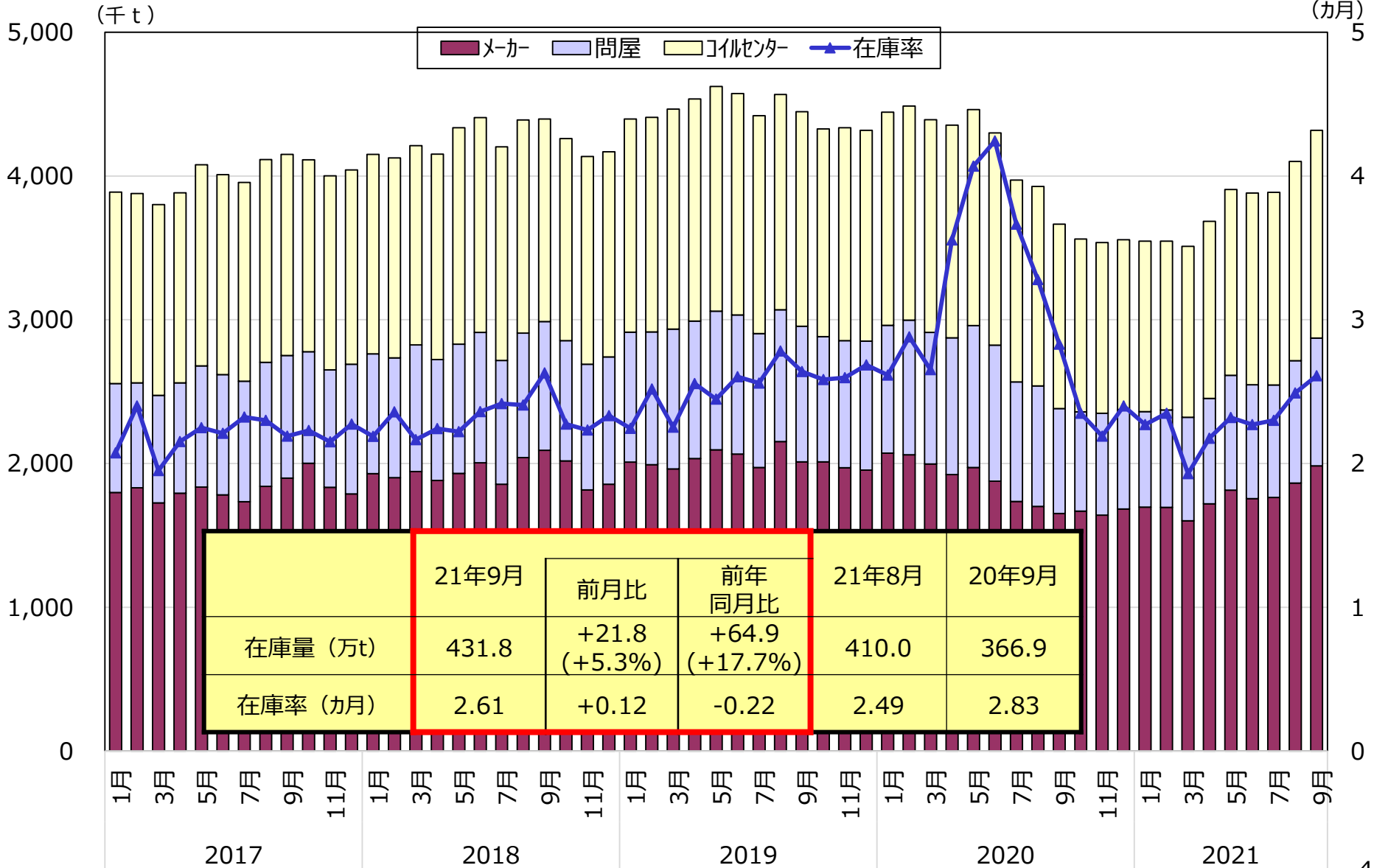
5. その他

▲249

- ・ 資産廃売却の時期差
- ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

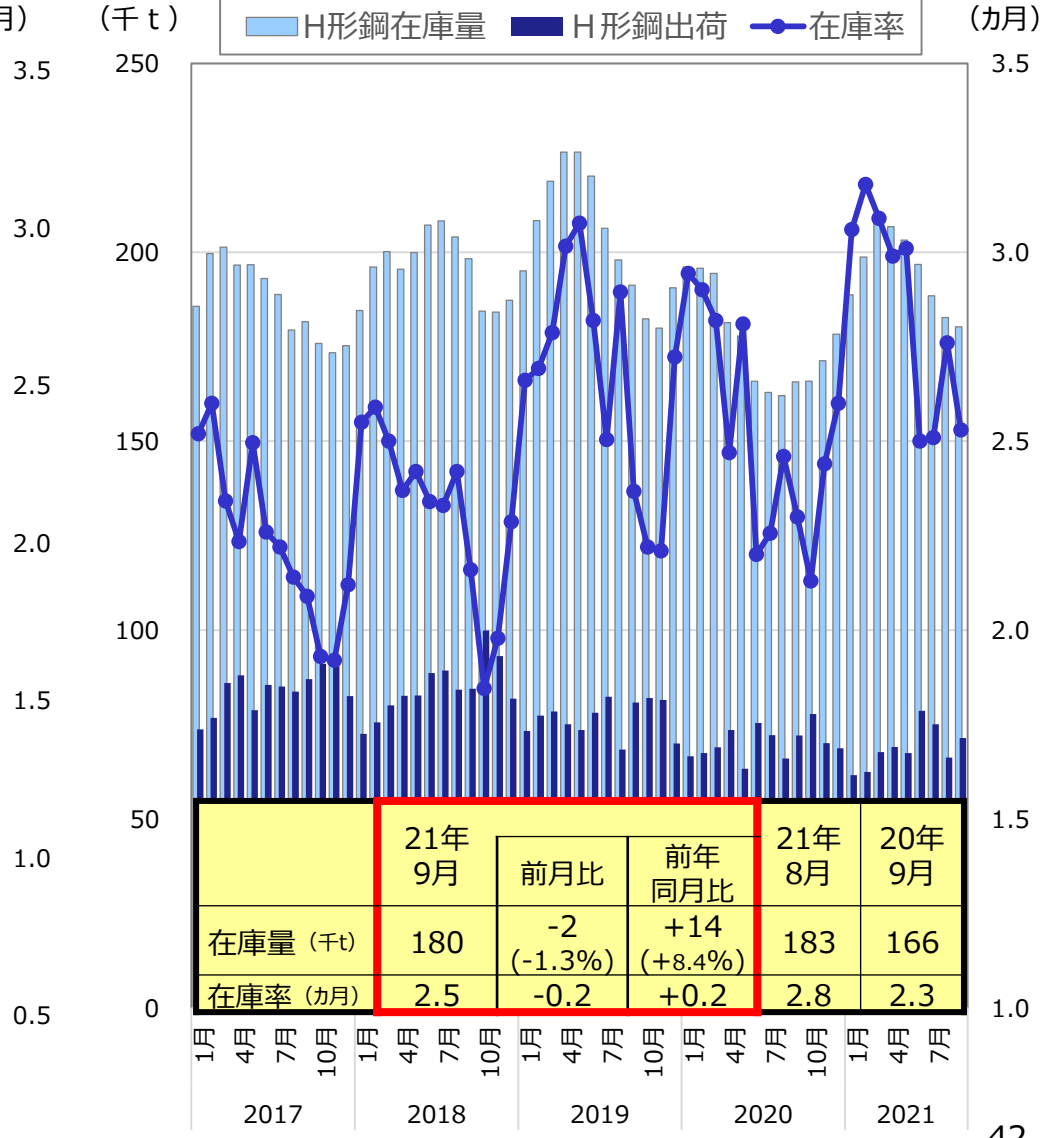
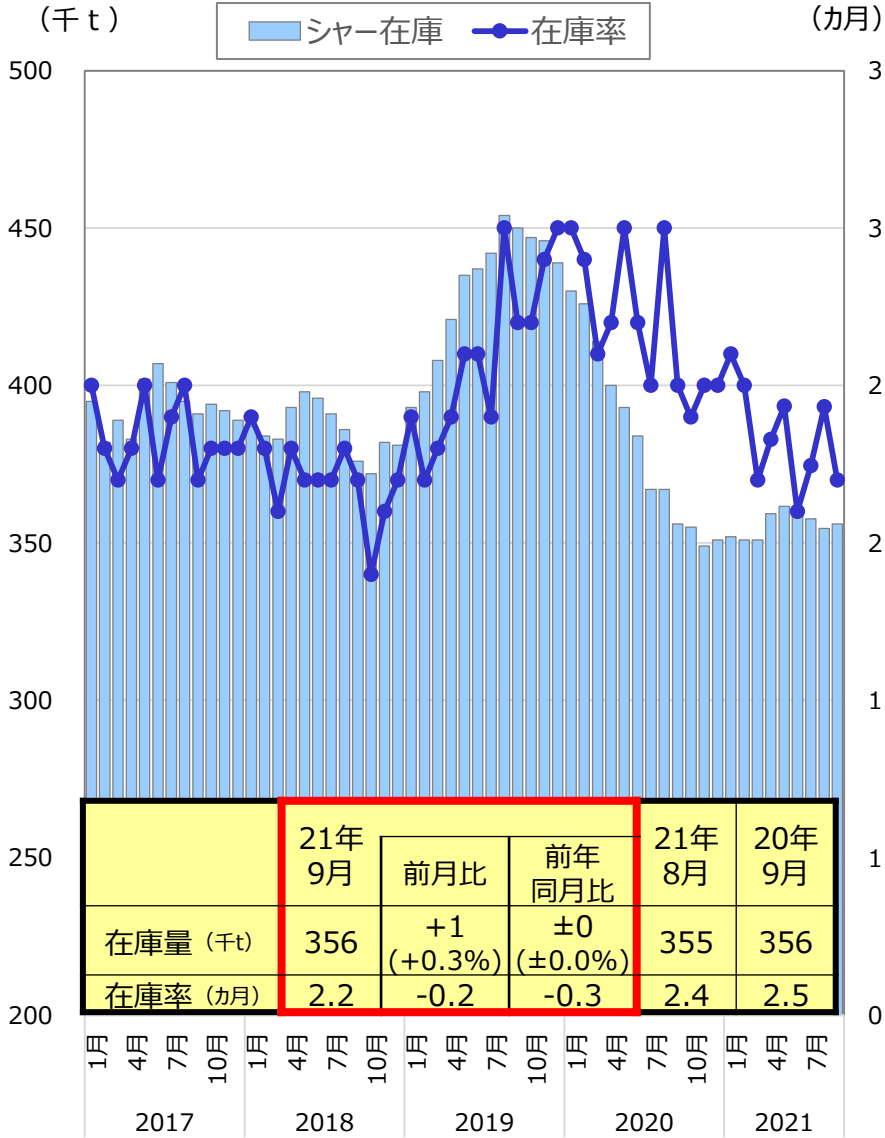
国内販売環境

薄板 3 品在庫



国内販売環境

厚板シャー・H形鋼在庫

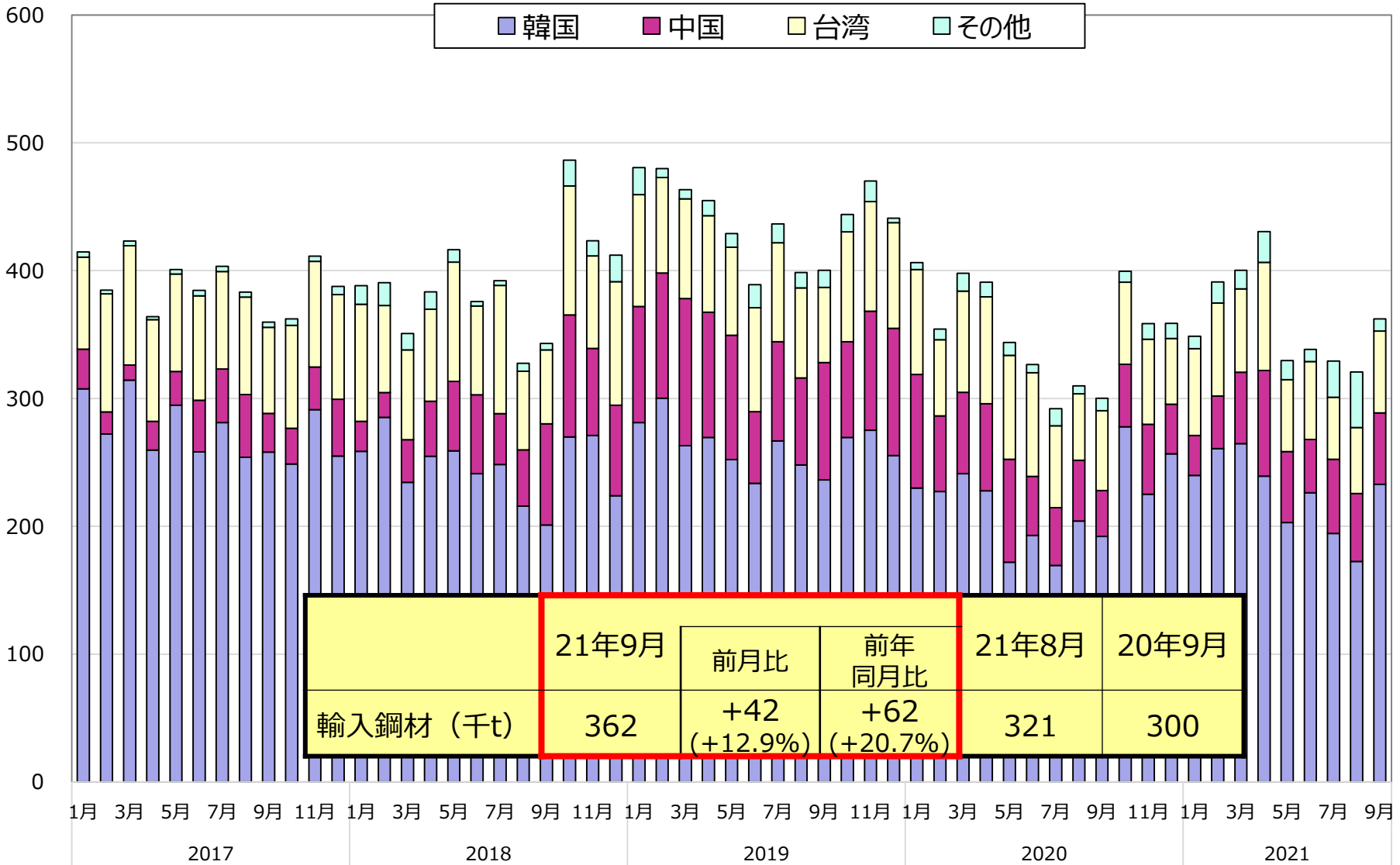


国内販売環境

輸入鋼材（普通鋼/国別）

JFE

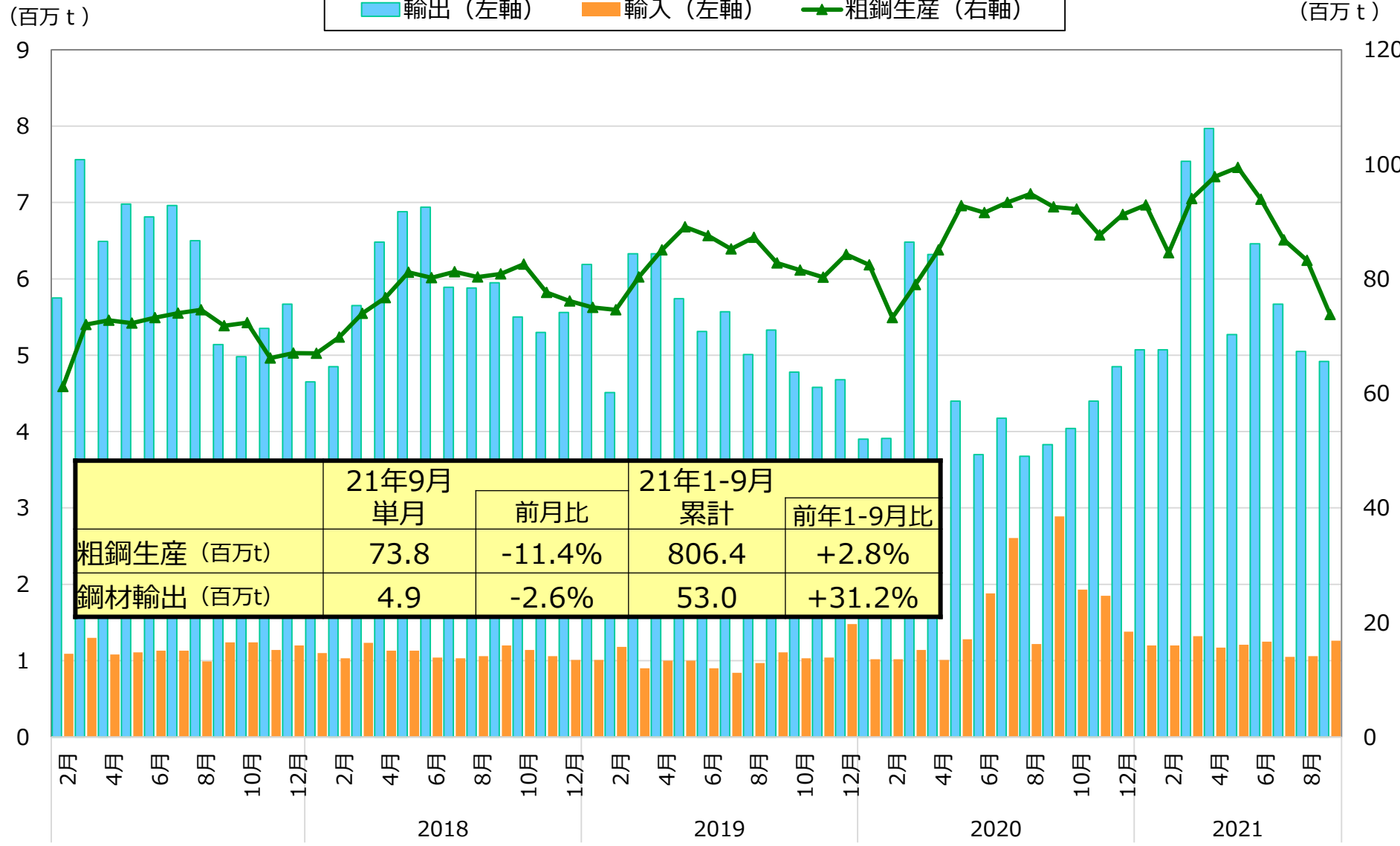
(千t)



	21年9月	前月比	前年同月比	21年8月	20年9月
輸入鋼材 (千t)	362	+42 (+12.9%)	+62 (+20.7%)	321	300

海外販売環境

中国粗鋼生産・輸出入

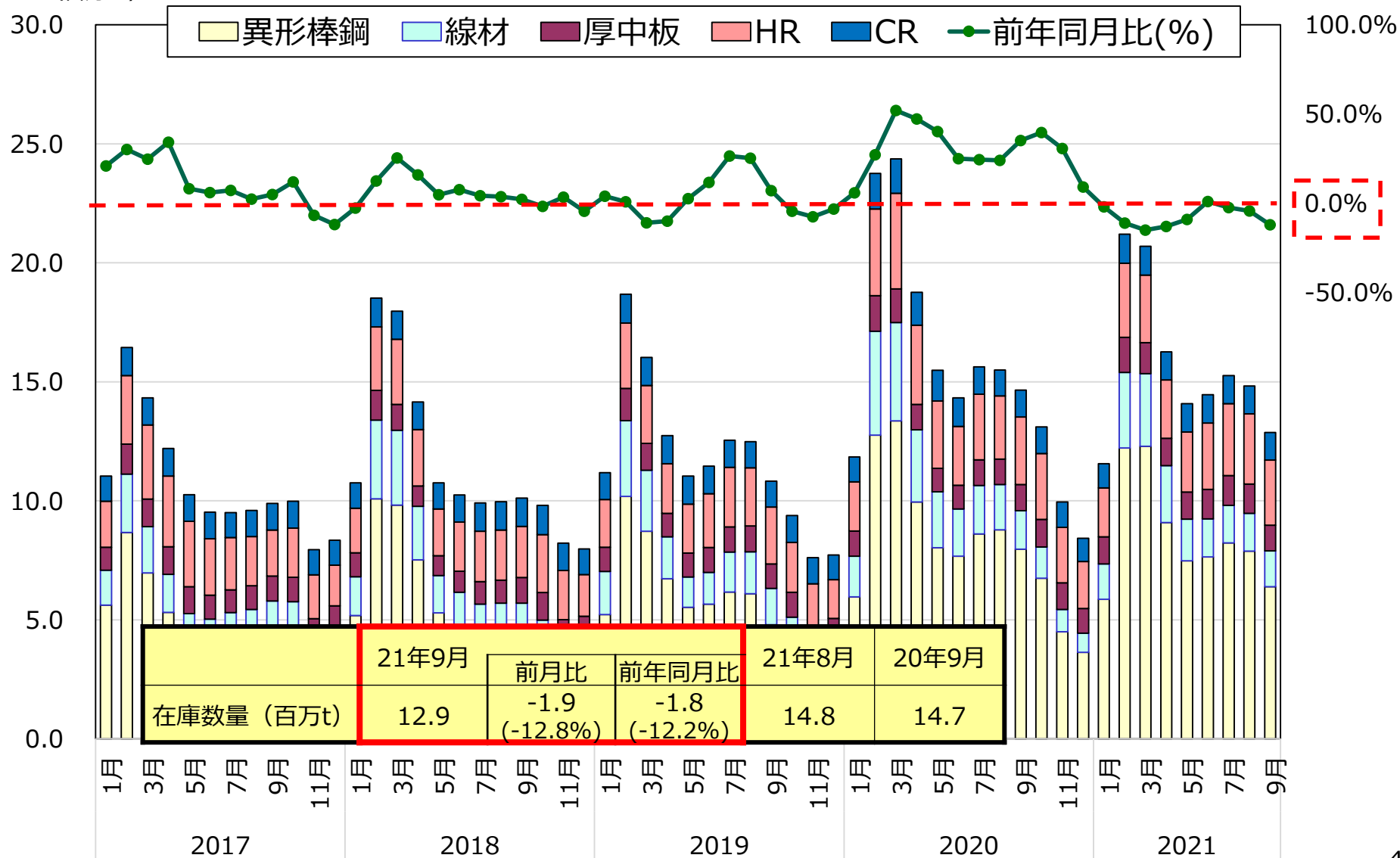


海外販売環境

中国品種別在庫数量



(百万 t)

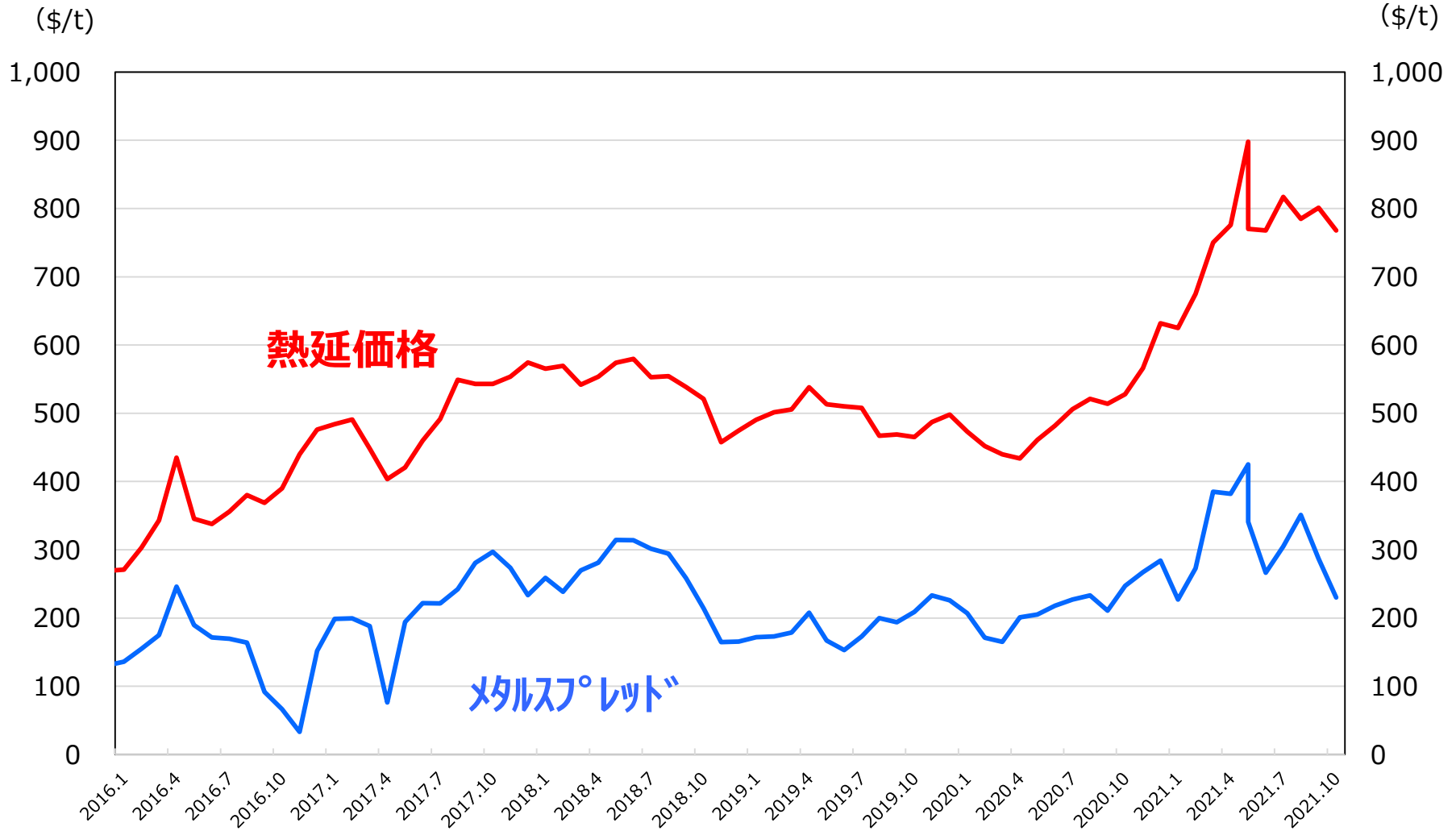


在庫数量 (百万t)	21年9月		21年8月	20年9月
	前月比	前年同月比		
	-1.9 (-12.8%)	-1.8 (-12.2%)	14.8	14.7



海外販売環境

(中国スポットベース)
メタルスプレッド



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

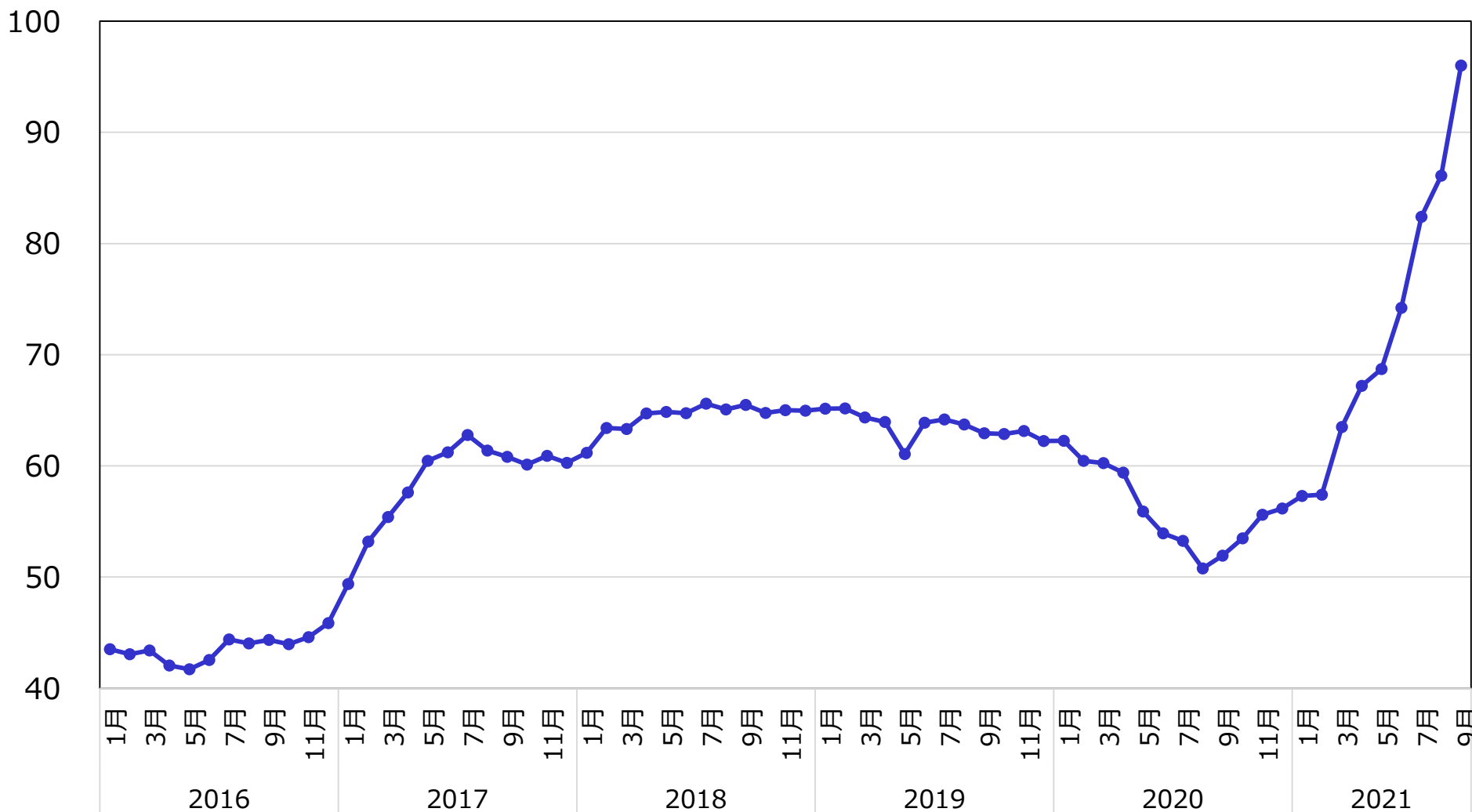
※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

(千円/t)



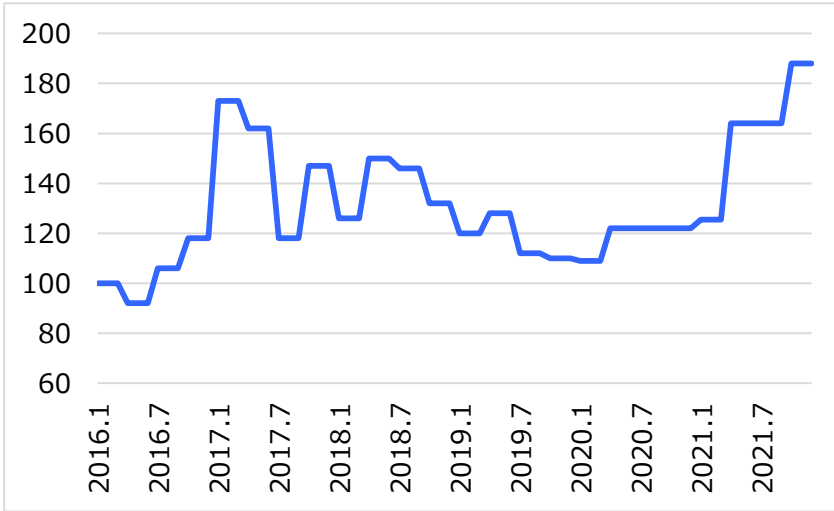
日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)

原料

金属市況推移



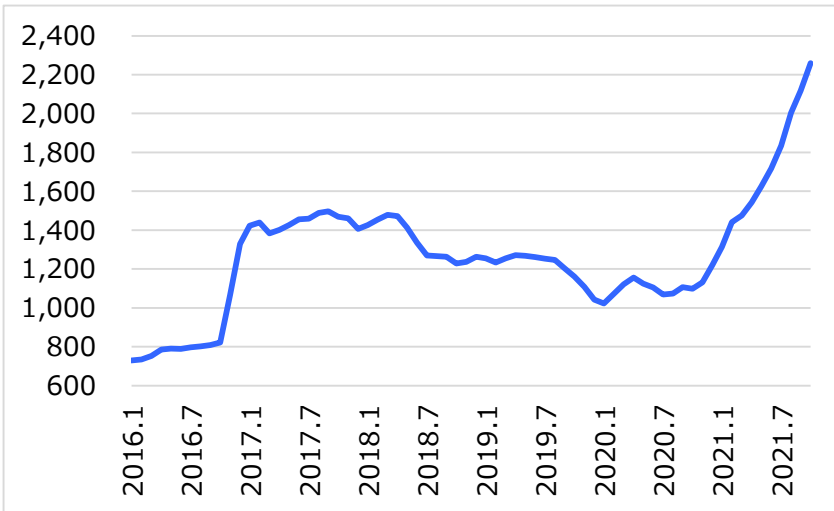
(¢/lb) フェロクロム



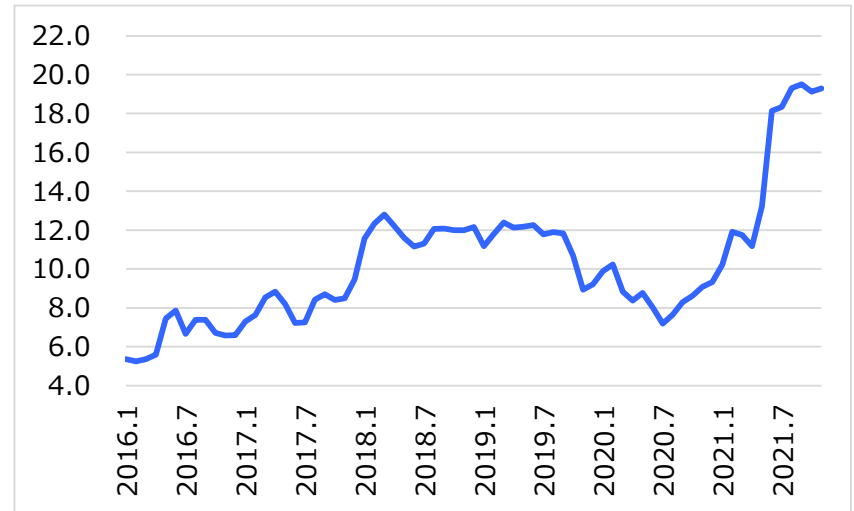
(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガン



(US\$/lb) モリブデン

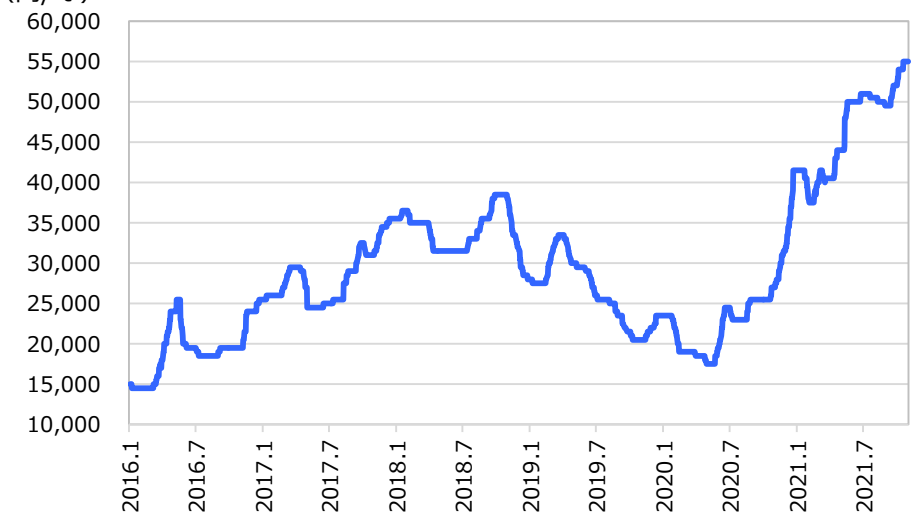




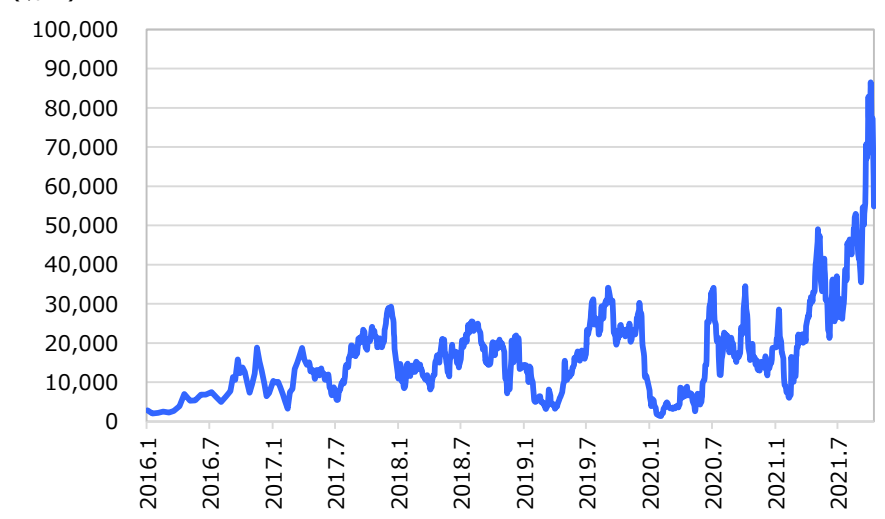
原料

その他市況推移

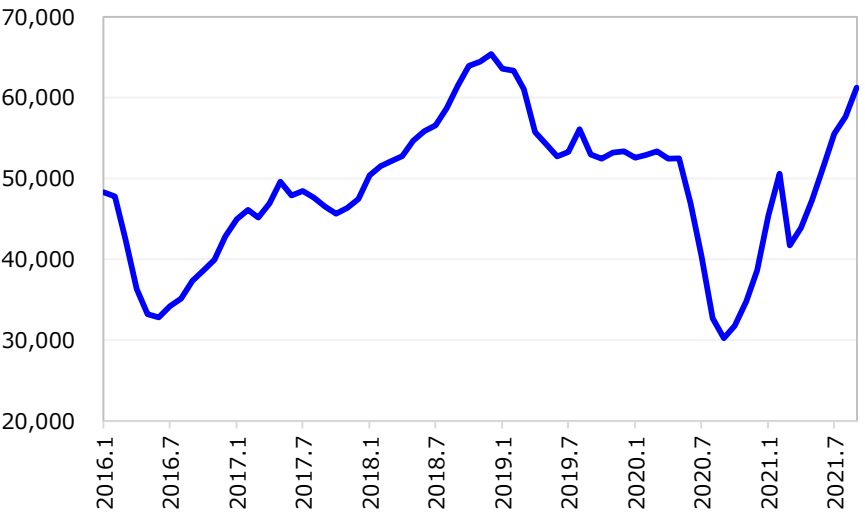
スクラップ市況



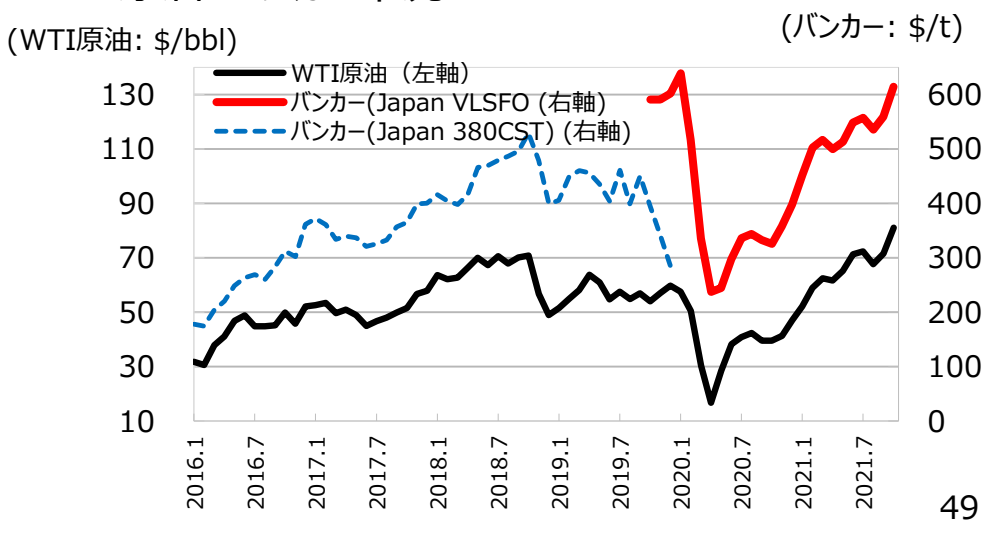
スポット備船市況



LNG市況



原油・バンカー市況



設備投資・構造改革スケジュール



設備		～19年度	20年度	21年度	22年度	23年度～
構造改革	京浜 上工程設備休止 (第2高炉・焼結・コークス炉・転炉・電気炉・連続鋳造機他)					★ 23年9月目途に休止
	京浜 熱延設備休止 (熱延ライン[除く酸洗・スキンパス])					★ 23年9月目途に休止
	京浜 冷延・表面処理ライン休止 (第1タンデム・第3CGL)		★ 19年度末休止			
	千葉 缶用鋼板設備休止 (第2タンデム・第2/4CAL・TFL・第2ETL)		★ 19年度末一部休止 (第2CAL・第2ETL)			★ 22年9月目途に休止 (第2タンデム・第4CAL・TFL)
新規稼働設備	千葉・倉敷 高炉改修			★ 倉敷第4高炉改修 (～21.12)	★ 千葉第6高炉改修 (22.9～12)	
	倉敷 連続鋳造			★ 第7連続鋳造機稼働 (21.6)		
	倉敷 電磁鋼板					★ 24年度 無方向性電磁鋼板 製造設備増強
	福山 コークス炉		★ 第3コークス炉A団	★ 第3コークス炉B団 (21.6)		
	福山 焼結		★ 第3焼結機稼働			
	福山 エネルギー			★ 共同火力発電所新2号機稼働		
	福山 フェロコークス			フェロコークス製造、運用技術開発		
	海外 メキシコNJSM			★ 自動車用CGL稼働		



JFEエンジニアリング 受注内容

JFE

(億円)

分野	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減	2021年度上期 主な受注内容 ★…第2四半期 新規・追加受注案件
Waste to Resource	2,200	2,300	100	国内廃棄物処理施設 新設工事[★奈良] 国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[高知] 海外廃棄物処理施設 新設工事[★ベトナム]
カーボン ニュートラル	360	820	460	松川地熱発電所更新工事[岩手] 森バイナリー発電所建設工事[北海道]
複合 ユーティリティ サービス	110	150	40	
基幹 インフラ	2,341	2,230	▲111	国内橋梁新設 (東海環状自動車道[岐阜]) 国内橋梁改築 (東名高速道路 [静岡]、★首都高速道路[東京]、 ★中央自動車道[長野])
合計	5,011	5,500	489	



JFE

Copyright © 2021 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい